地域医療市民フォーラム

明石の医療の今、これから

―安心の医療を確保するために、私たちが考えるべきこと―

参加者アンケート集計結果

平成２１年８月

明　　石　　市

１．アンケート仕様について

１）調査目的

明石市では市民の安全・安心を確保するため「明石市安心の医療確保政策協議会」を設置し、地域医療体制の充実に向けて検討を行っており、このたび、地域医療市民フォーラムにご参加いただいた市民の皆様や医療関係者の地域医療に関する関心や意見などを調査し、今後の地域医療の確保に向けた事業等を検討する際の参考とします。

２）調査対象

「地域医療市民フォーラム」に参加された方に対し、アンケートを実施しました。

３）調査方法

参加者全員に対し、入場時にアンケートを配布し、フォーラム終了後にアンケートを回収しました。

２．地域医療市民フォーラムについて

１）趣旨

恒常的な医師不足や勤務医の過剰労働、医療に係る紛争の増加等、全国的に医療崩壊が進んでいる中、明石の医療の現状はどうなっているのか、また、私たちが安心して医療を受け続けるためには、何が求められているのか等について、医療を提供する医師と受ける側の市民等が一堂に会し、ともに考える機会として、開催したものです。

２）日時

平成２１年８月2日（日）午後2時～午後４時３０分

３）場所

明石市立産業交流センター　２Ｆ多目的ホール

４）主な内容

第一部　基調講演「明石の医療の今。そこに内在する問題」
信友　浩一 氏
（九州大学大学院医学研究院医療システム学分野教授）

第二部　パネルディスカッション「これからの明石の医療を考える」

コーディネーター	信友　浩一 氏		
パネラー	大西脳神経外科病院	垰本　勝司	副院長
	明石市医師会	日下　孝明	会長
	明石市立市民病院	佐々木　享	院長
	明石市民	髙橋　忠四郎	氏
	明石健康福祉事務所	松本　圭司	所長

５）参加者

２１０人

３．回収結果

・参加者約２１０人の内、医療関係者以外を対象にしたアンケートの回収数は１１５人、医療関係者を対象にしたアンケートの回収数は５１人、合計１６６人であり、回収率は約７９．０％となりました。

配布数	回収数（合計１６３人）		回収率
	医療関係者	左記以外	
210人	48人	115人	77.6%

４．集計・分析について

・端数処理の関係上、合計が１００％にならないことがあります。

・複数回答が可能である設問については、合計が１００％を超えることがあります。

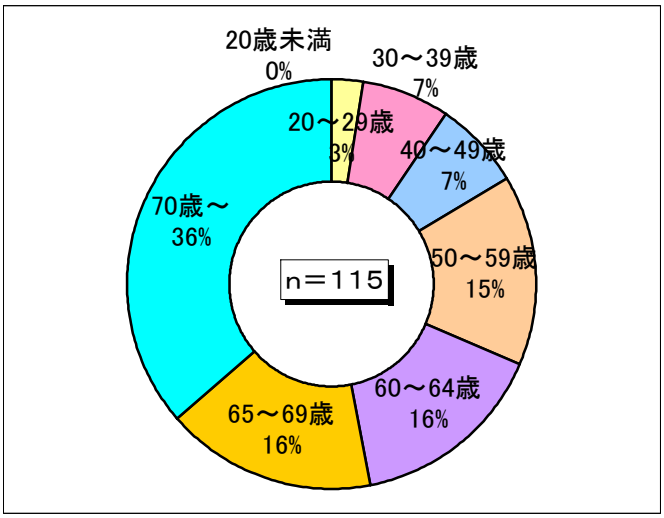
・グラフに記載している「ｎ」は、その設問の回答者数を表します。

・グラフ等に記載している選択肢は、掲載上省略している場合があります。

５．アンケート集計結果（医療関係者以外）

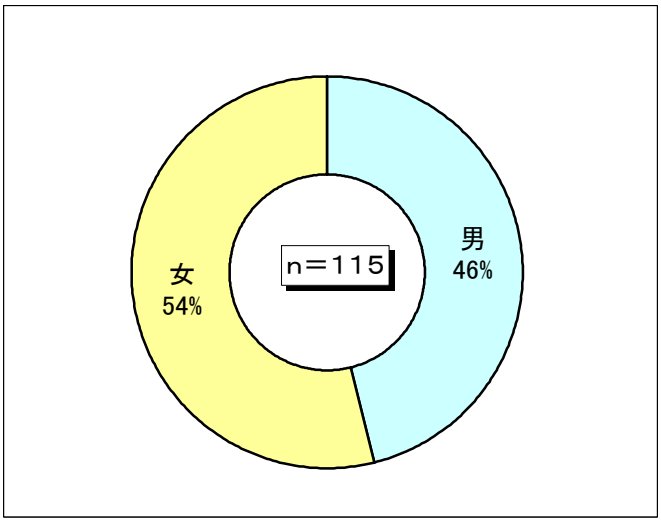
Ｑ１～３　年齢区分、性別、お住まいの地区について

年齢

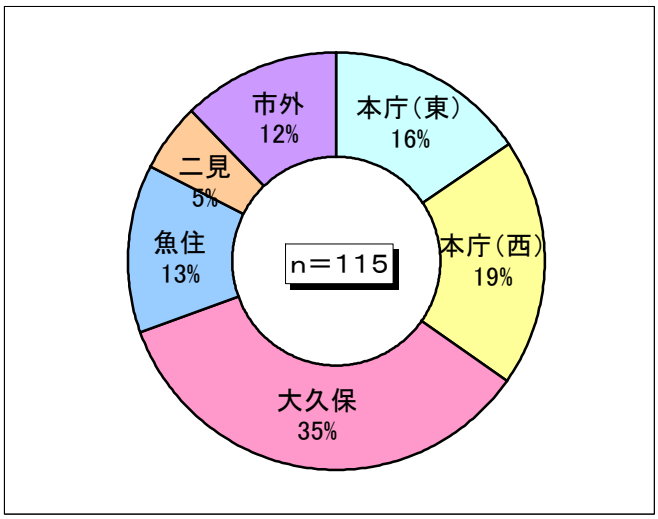


ご回答いただいた方の68%は６０歳以上となっている。

性別



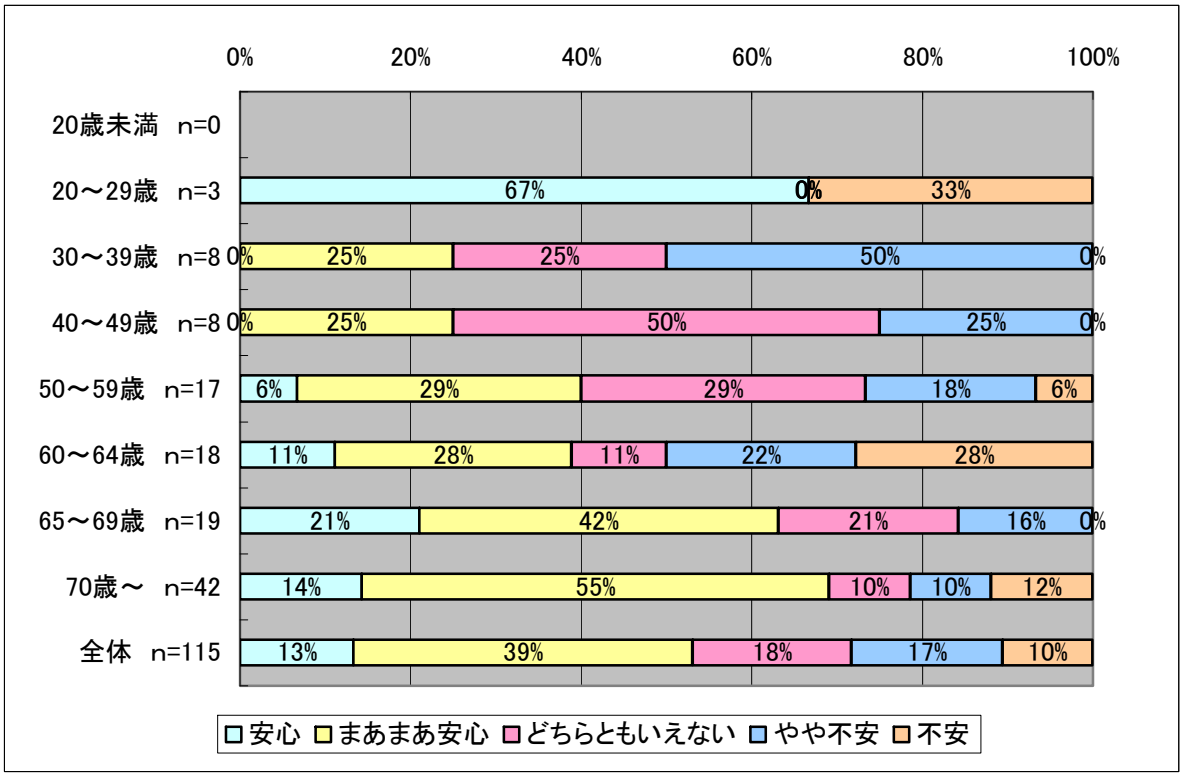
お住まいの地区



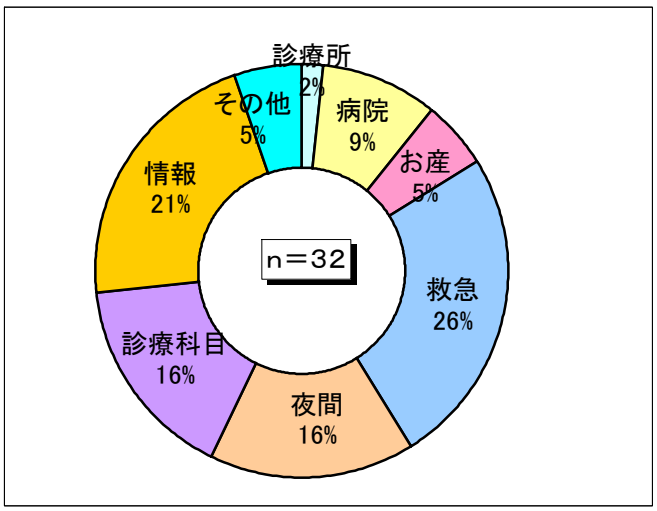
ご回答いただいた方のお住まいの地区は大久保地区が多いものの、全地域の方にご参加いただいた。また、１０%を超える市外の方、特に明石市と隣接する神戸市西区からの参加が多く見受けられた。

Ｑ４　あなたは、病院や診療所で医療を受けること、救急体制などの状況について、どのように感じていますか。

全体では、「安心」「まあまあ不安」と答えた方は、過半数を超えているものの、3割近くの方が「不安」「やや不安」と答えている。
また、年齢別では高齢になるにつれて、不安に感じている方の割合が少なくなる傾向が見られる。



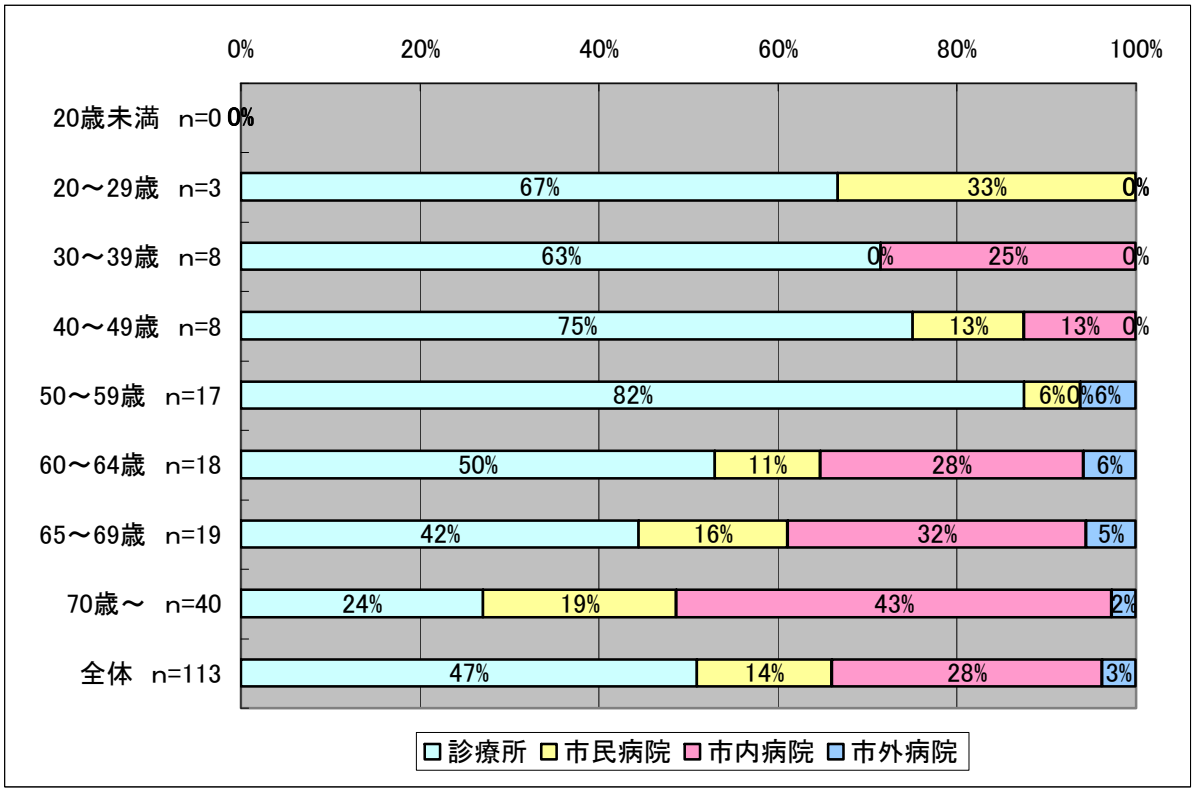
Ｑ５　Ｑ４で「不安に感じている」を選ばれた方は具体的にどのようなことが不安ですか。



救急に関する不安が最も多いが、次いで、医療機関の情報不足に対する不安も多く見られる。

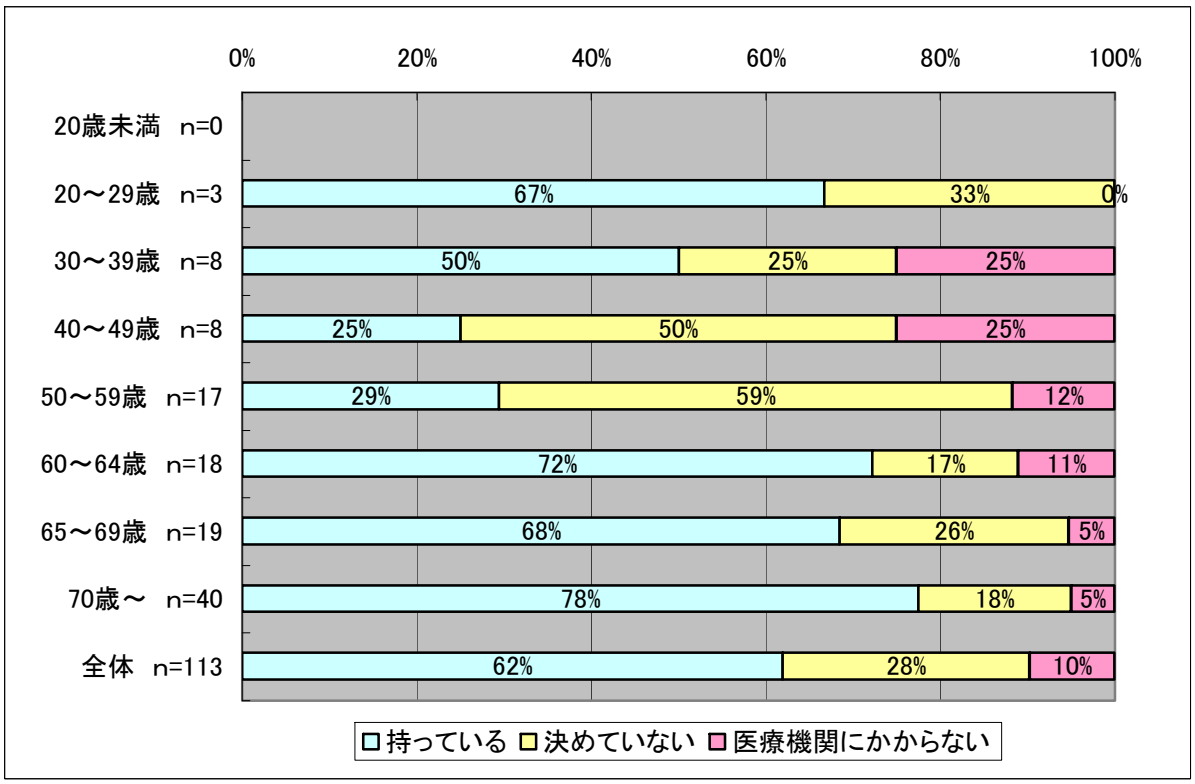
Q6　あなたご自身が最も利用される医療機関はどれですか。

全体では、利用する医療機関は、診療所と病院がほぼ同数となっている。年齢別では、病状にもよる部分が大きいが、高齢になるほど、病院を利用される方が多い。

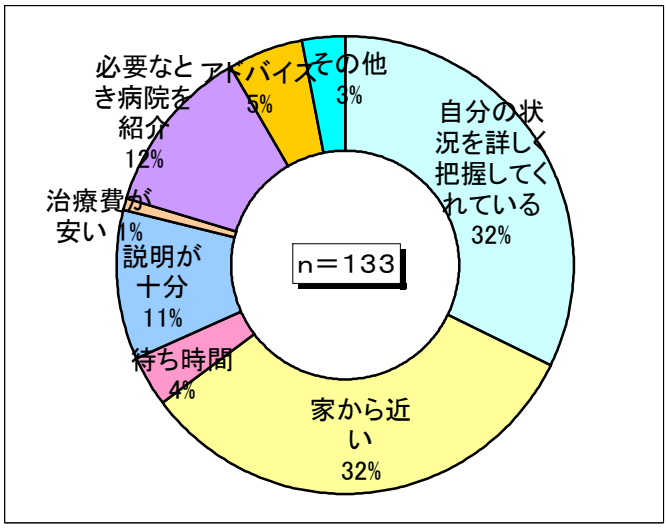


Q７　あなたご自身は「かかりつけ医」をお持ちですか。

全体として、６割の方が「かかりつけ医」をお持ちで、年齢別では40代、50代の年齢層で「かかりつけ医」を持つ割合が低く、高い年齢層において「かかりつけ医」を持つ割合が高い。

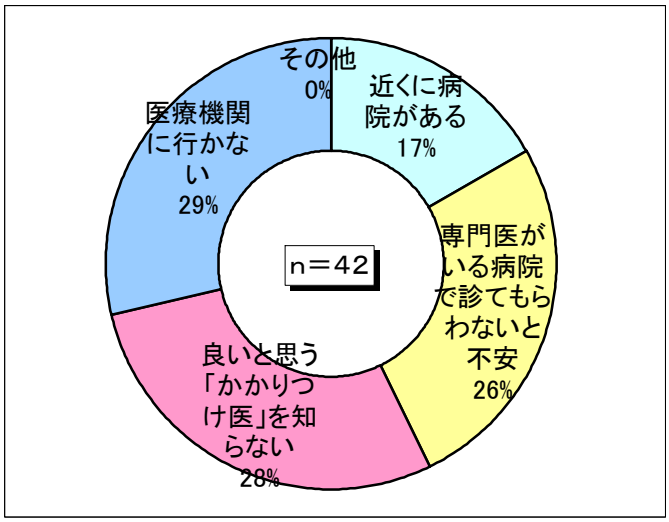


Ｑ８　Ｑ７で「かかりつけ医を持っている」を選ばれた方の具体的な理由について（２つまで選択）



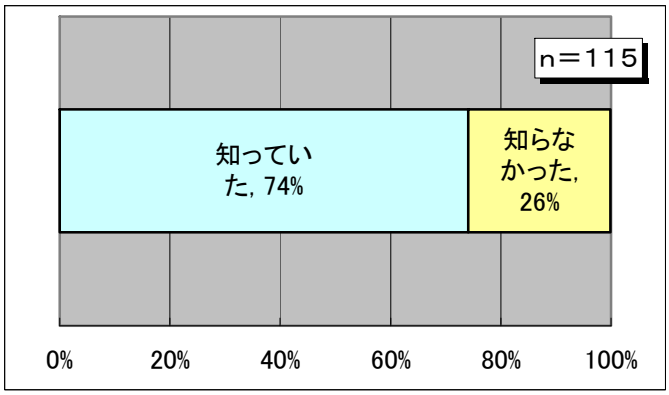
「常日頃から自分の状況を詳しく把握してくれている」、「家から近い」を選んだ方が最も多く、「高度・専門的な治療が必要な症状のとき、適切な病院を紹介してくれる」、「説明が充分で質問に丁寧に答えてくれる」が続いている。家から近いという利便性を求めてはいるものの、医師とのコミュニケーションと診療所と病院との連携を望んでいる。

Ｑ９　Ｑ７で「かかりつけ医を持っていない」を選ばれた方の具体的な理由について（２つまで選択）



「医療機関に行かない」を除けば、「良いと思うかかりつけ医を知らない」、「専門医がいる病院で診てもらわないと不安」を選んだ方がそれぞれ3割近くを占めている。

Ｑ１０　診療所が比較的軽い症状や初期・回復期の治療を担い、病院が入院や手術などの専門的治療を担うといった、地域の医療機関が紹介しあって連携する取組が全国的に進められています。あなたは、このような取組についてご存じでしたか。

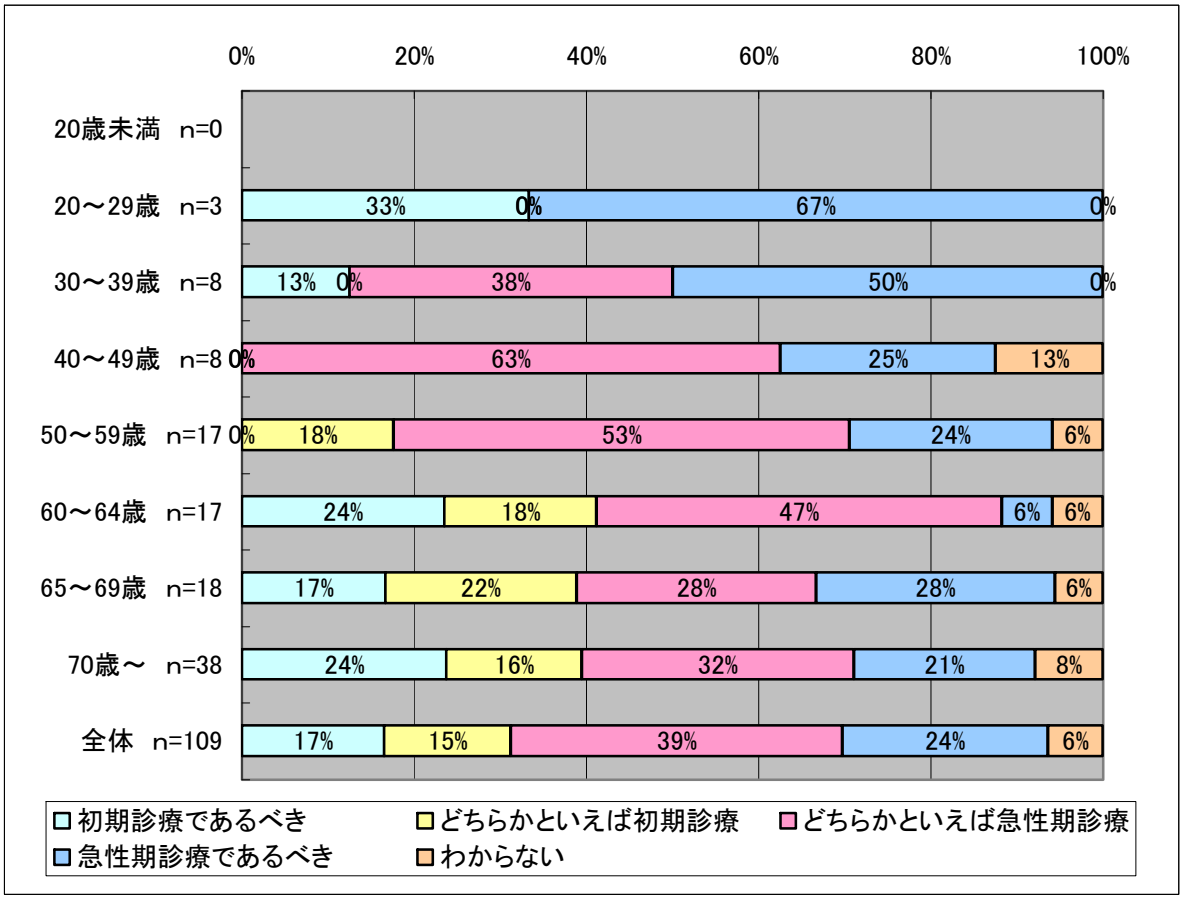


診療所と病院の連携（病診連携）、病院と病院の連携（病病連携）について、7割を超える方が知っていると答えている。

Ｑ１１①　今後、あなたは明石市立市民病院にどのような役割を期待しますか。

・気軽に受診できる大きな診療所のような役割（外来中心）⇒初期診療
・救急医療や重症患者を中心に扱う役割（入院中心）⇒急性期診療

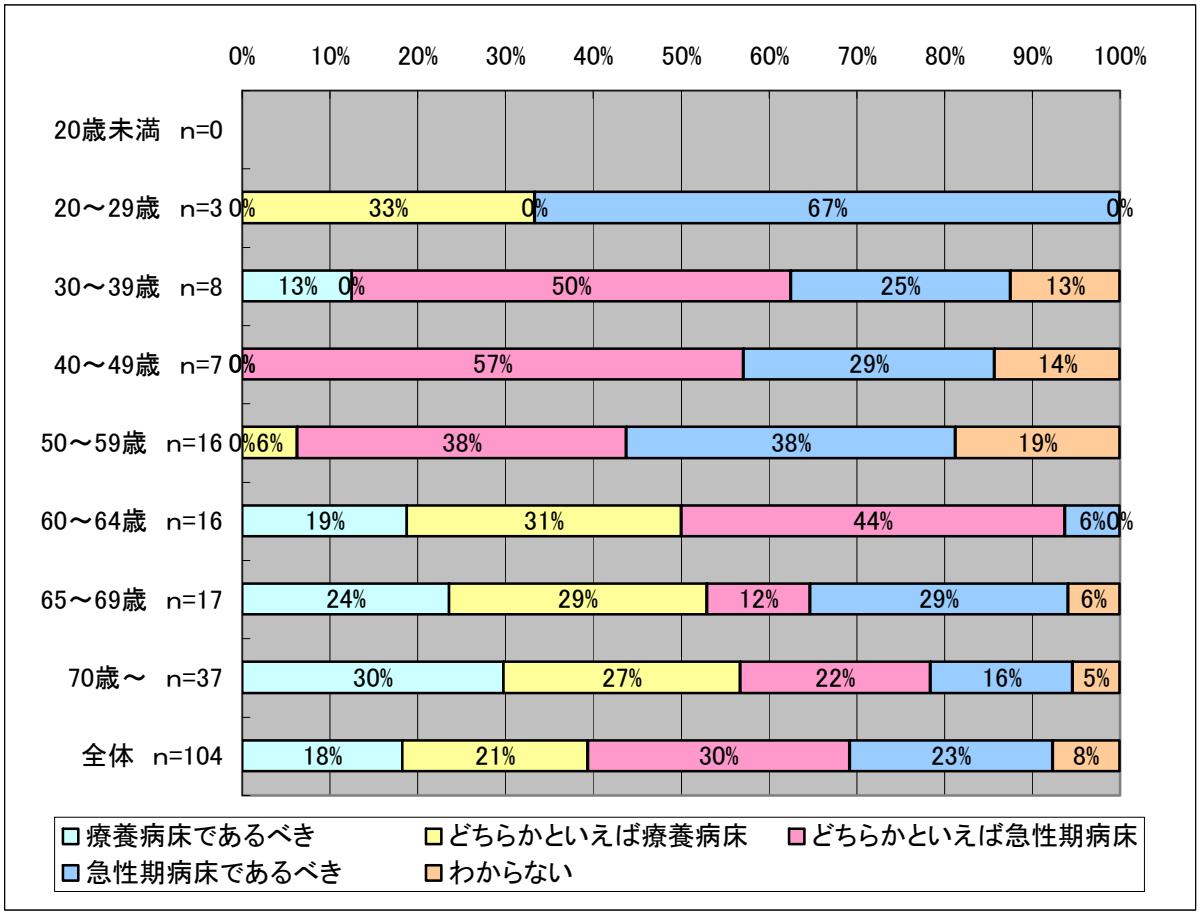
全体として、明石市立市民病院に外来中心の初期診療よりも入院中心の急性期診療を望む回答が６割を超えており、年齢別では、60歳以上階層で初期診療を望む声が約４割程度となっている一方、60歳未満の階層では、ほとんどが急性期診療を望んでいる。



Ｑ１１②　今後、あなたは明石市立市民病院にどのような役割を期待しますか。

・長期的でも入院療養できる病床を提供する役割　⇒長期療養型病床
・重症の患者に、高度・専門医療を集中的に提供する役割
（入院期間は短い）⇒急性期型病床

全体として、明石市立市民病院に急性期型病床を望む回答が過半数を超えてはいるものの、長期療養型病床を望む回答も約４割あり、大きな偏りが見られない。年齢別では、高齢層になるにつれ長期療養型病床を望む回答が多くなっている。



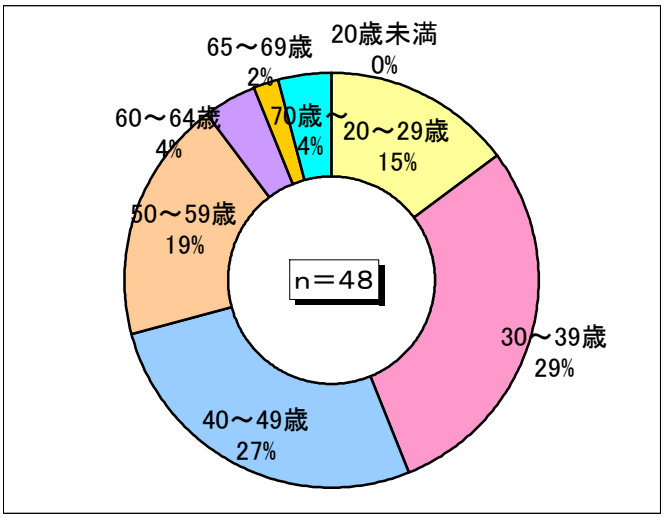
フォーラムのご感想や明石市の地域医療に関してご意見がございましたら、ご記入下さい。

・患者も医療者も相手に対する心が無くなってきていた。初心に戻って、パーツではなく人間として話し合って見たい。お互いの感謝の気持ちが大切。
・市民病院をはじめとする中核病院の医師や診療科の充実を図り安心した医療を受けられるよう患者と医師、病院の関係を築くことが大事。
・病院の現場スタッフの声、思いをもっと時間をかけて聞きたい。
・話し合いで浮き上がった医療に関する課題を解決するため、継続的な話し合いの場が欲しい。
・健康講座などを利用して患者側も勉強して健康に対しての知識を高め、できるだけ救急での受診を少なくできればと思う。
・かかりつけ医をもつことの必要性を感じた。
・正確で最新の医療の情報が大切。明石市や医師会のホームページなどで医療機能の情報公開をしてほしい。

6. アンケート集計結果（医療関係者）

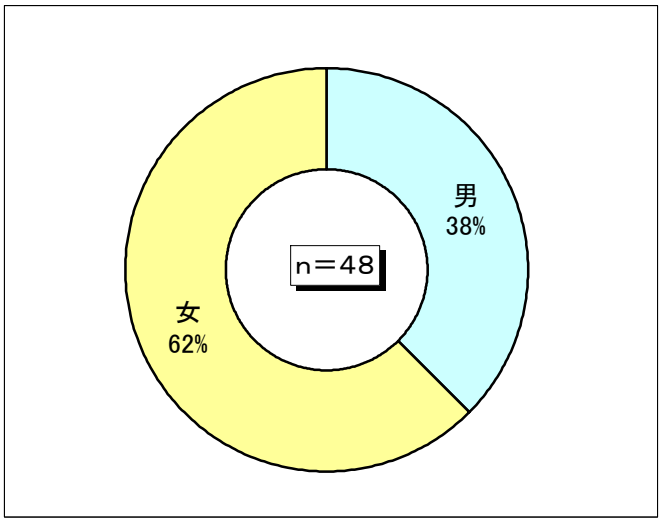
Ｑ１～３　年齢区分、性別、職種について

年齢

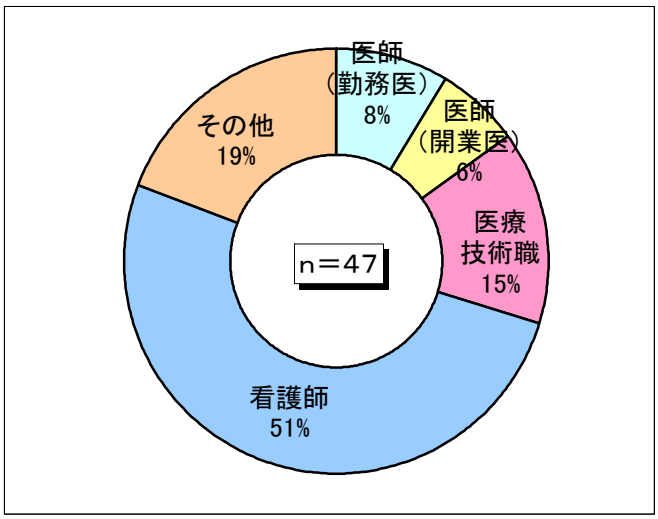


ご回答いただいた方の４５％は４０歳未満である。

性別



職種



ご回答いただいた方の職種は約半数が「看護師」で、次いで「その他」の職種となっている。「その他」の職種の主なものは、病院事務である。また、少数であるがそれ以外の全ての職種がご回答いただいている。

Ｑ４　現在、勤務されていて、また、本日のフォーラムをお聞きいただき、明石市の地域医療の課題は何だとお思いですか。

・診てもらってあたりまえ、診てやっている、という意識を変えていくこと。
・医療提供側と患者側の意識のギャップを埋めていくこと。
・何かあれば訴訟や院内の会議にかけられることへの恐れからくる心の疲れを減らしていくこと。
・かかりつけ医を持つという意識を高めていくこと。
・医療提供の分担を患者側へわかりやすく情報提供していくこと。
・市内の病院間の連携をしっかり構築すること。そのために現状を知り、知らせ役割分担を理解し協力すること。市民病院がしっかり主導していかなければ連携は進まない。
・病院間の、特に勤務医同士の話し合いと協力体制を作ること。
・市民病院の機能改善。医師の確保。２次医療病院であることの市民への意識啓発。
・市民病院も含めた各機関のスタッフ全員と明石市民に、明石市の地域医療の骨組みと各々の病院の役割を認識させること。
・急性期、回復期、それぞれの機関に適した病院で診療していくこと。
・明石市だけでなく、神戸市や加古川市など近隣市町を含めた情報連携を図ること。
・ホスピス医療、在宅医療を充実させること。緩和ケア病棟の設置、緩和医療を十分にできる在宅医、ナースを増やすこと。
・子育て中の女性が働きやすい環境を整備すること。

Ｑ５　Ｑ４でお答えいただいた課題の解決策としてどのようなことが考えられますか。

・市や医師会が地域医療に関する情報提供をより多く行うこと。
・かかりつけ医の探し方や窓口をもっとアピールしてより多くの方に知っていただくこと。
・この医療フォーラムのような話し合いの場をもっと増やすこと。
・病院探検隊など、健康な市民が現実の医療を知る場を設けること。
・このフォーラムの内容や主旨を広報誌や自治会の回覧などにより、多くの住民に伝えること。
・病院側がもっと自病院の機能と実績を情報発信、情報公開していくこと。
・市が各病院や開業医、スタッフの意見を聴取し、取り上げていくべき。
・患者さんに医療を提供するだけではなく、コミュニケーションをとり患者さんが期待する医療、看護を提供しなければならないと思う。
・医師と患者のきずなを深めること。
・市民病院の意義や将来的なあるべき姿を時間をかけて十分に議論を行うこと。
・地域ごとで疾患別に関係する医師が集まり医療連携について話し合うこと。
・各病院が病院の役割、特徴、方向性を職員に認識させる合同カンファレンスの様な場を設けること。職員が一丸となって頑張れる共同の目標を作ること。
・全ての科に連携パスを導入すること。
・患者のために何が一番かを考え、選択できる環境を整えていくこと。

Ｑ６　本日のフォーラムのご感想や明石市の地域医療に関してご意見などがございましたら、ご記入ください。

・このようなフォーラムの場で、かかりつけ医を持つこと、市民が医療者まかせにするのではなく自分の意見を持つこと、ルールを守って受診すること、医療体制を理解すること等、多くの課題認識ができたことは良かったと思う。
・医療提供側と受ける側との共同作業の重要性、必要性を共有し、「明石の医療」作り上げたい。
・医療関係者自身が自施設の役割、機能を理解すべきだと思った。また、その機能と他の病院との連携を市民にわかりやすく示すべきだと思う。
・地域に住んでいる市民のみなさまの意見をもっと聞きたい。対話が必要。
・参加者が発言する時間をもっと多く取って欲しかった。
・「明石市安心の医療確保政策協議会」による調査報告の内容をもっと紹介して欲しい。
・市民参加のパネラーが提示された「医療情報が少なく医療体制が分かりにくい」などの問題点に対して、医療者側からの十分な説明が欲しい。
・公立病院の存廃は総務省が決めるべきことではなく、地域の意見で決定すべきであり、病院経営が赤字になったことを問題にして、廃止させることは絶対にあってはならない。そのための財源は地域が決定すべきである。
・激務を続けてらっしゃる先生に、どうか感謝の気持ちを言葉で伝えて下さい。
・それぞれが個々にがんばるのではなく、それぞれの専門分野で力を発揮し、手を取り合って市民の医療を担っていくことが需要である。「明石はいいまち」とみんなが思える住みやすいまちづくりをしていきたいと思う。

多くの方々にご回答いただき、大変貴重なご意見を頂戴することができました。
ご協力、誠にありがとうございました。

平成２１年８月　発行
明石市保険・健康部地域医療課
明石市相生町２丁目５番１５号

電話　０７８－９１８－５６５８
fax　０７８－９１８－５６５５
mail　iryo@city.akashi.hyogo.jp